

これまで4回にわたり、CROの意義や必要性、仕事内容、業界の成長ぶりなどを紹介してきた。今回は、「CROでの仕事は薬剤師の重要な職能であり、高度な薬学教育はCRO分野で最大限に生かせる」というCRO業界からの熱いメッセージを届けたい。

# 新薬開発で医療に貢献 高い知識を生かせる職場

これからの薬学教育は6年制、4年制が並行して進められる。高い職能を有する薬剤師、創薬研究や製薬企業での研究・開発に携わる医薬品の専門家、どちらにしても薬の専門的知識を活用できる職場は豊富に用意されている。教育課程で得た高度な知識と実践手法、臨床現場などで蓄積された経験・ノウハウによって、病に苦しむ多くの患者が待ちこがれている画期的新薬を開発し、1日でも早く医薬品として誕生させ、患者と医療に貢献することは、薬剤師・薬学専門家の責務でもある。一般の他産業に比べ、別格の高い倫理性を求められる医療人として、国民の健康・福祉の向上に多大なる影響を与える「薬剤師・薬学専門家」の職能であるCROという職業も、一つの重要な選択肢であることを覚えてほしい。

**患者を救う崇高な使命**

医薬品開発にCROの存在と果たす役割が、製薬企業の開発コストの効率化、品質向上、開発の迅速化に不可欠なことは、今までに述べた通りである。  
薬剤師は、医薬品の専門家として唯一の存在であり、医薬品産業がその能力と資質を必要としていることは紛れもない事実である。医薬品業界と一言で言っても、大学やメーカーなどにおける研究・開発から、メーカーでの製造・販売、医薬品と医療情報の流通を担う医薬品卸、医療機関での調剤業務、そして薬局での調剤とOTC薬販売など幅広いものだが、そのいずれもが医薬品の専門知識をフルに活用できる分野である。

薬剤師の専権業務である調剤以外に、医薬品開発に意欲を持つ薬学生にとっては、製薬

企業への就職も視野に入っていることと思う。CROは、その起業者やスタッフたちの多くが製薬企業出身であることを考えれば、製薬企業と密接な関わりがあることは想像に難くない。医薬品開発については、経営上の理由もあるものの、医薬品メーカーの全てが、「患者・国民への貢献」を企業ポリシーとして掲げていることは、厳然たる事実であり、疑う余地もない。

その崇高な目的を遂行する医薬品開発には、高度な医薬品の知識が必要になる。メーカーに就職して、候補物質の探索から新薬開

薬剤師の仕事「CRO」⑤

発などに携わることも一つの方法であるが、前回紹介したように、CROはその特性から、いまや社会にとってなくてはならない業態であり、その証拠は、前々回に述べた飛躍的な業界の成長性が物語っている。

薬学をマスターした暁には、高度な薬学教育を十二分に活用できる「CRO」というやりがいのある仕事に就くことも、人生設計の一つだと認識してほしい。

最後に、日本CRO協会の中村和男会長から、熱意と意欲ある薬学生へ呼びかけたコメントで締めくくりたい。

「臨床試験の国際基準への対応とインフラ整備が求められている中で、臨床試験の質を向上させるという医薬品開発に不可欠な仕事に携われるのは、大きな喜びです。CROは、従来の医薬品開発モデルを打破していける能力と、その実現に向けた強い責任感を兼ね備えています。このCROという魅力ある世界で、一緒に仕事をしてみませんか」

**熱意ある人材を歓迎**

共立薬科大学は3月22日午前10時から「医療系学生交流合同セミナー：医療系多職種間のより良いコラボレーションを求めて」を同大講堂で開く。東京慈恵会医科大学、首都大学東京、聖路加看護大学が共催する。

## 医療系学生の交流目的に 共立薬大が合同セミナー

**3月22日開催**

同セミナーは医学部、薬学部、看護学部、健康保健学部など医療関連学部の現役学生を対象とし、種々のトラブルの実例を示したシナリオを基に、医療の問題点について考え、話し合うグループワークと講演（3テーマ）で構成される。参加費は無料だが、担当の小林静子氏までメール（kobayashi-

sz@kyoritsu-ph.ac.jp）で今月末日までに申し込むこと。専門領域ごとに定員があり、定員になり次第、締め切られる。申し込みには氏名、大学名・学部・学年、メールアドレス等の記入が必要。

当日予定されているケーススタディは、①抗がん剤の過剰投与②医療者間コミュニケーション（車椅子での骨折、薬剤の疑義照会、患者さんからのクレーム）がテーマ。講演は①コミュニケーション入門：福島統（東京慈恵会医科大学教授）②病棟でのチームワーキング-NST（Nutrition Support Team）の場合：大村健二（金沢大学医学部附属病院内分泌・総合外科科長）③病棟でのコミュニケーション：木下正信（首都大学東京教授）——が行われる。

詳細については共立薬科大学ホームページ（<http://www.kyoritsu-ph.ac.jp/>）NEWS欄の「『医療人GP：医療系学生交流合同セミナー』を開催いたします」をクリック。



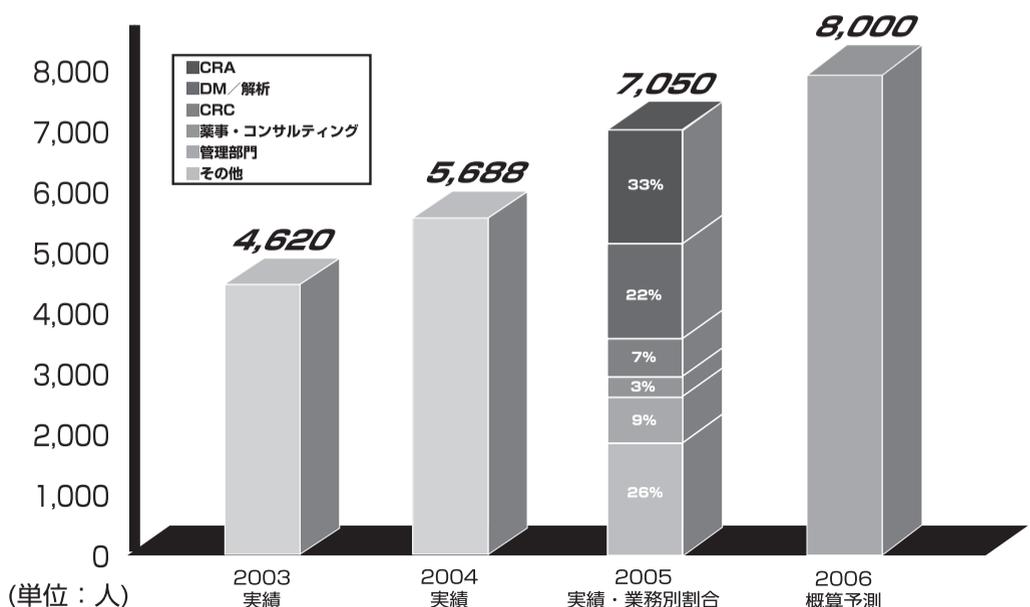
日本CRO協会は医薬品・医療機器・食品等の臨床開発業務受託機関の業界団体です。受託業務の信頼性の確保・向上を目的として活動しています。

<http://www.jcroa.gr.jp/>

**日本CRO協会**

お問合せ先：日本CRO協会事務局 TEL 0120-353-125

拡大を続ける活躍の場(日本CRO協会会員総従業員数推移、業務別割合)



註：CROは Clinical Research Organization の略称